大人になるっておもしろい？（1）

　現在はにかむことにも、口数の少ないことにも、沈黙にも、なかなかプラスの価値が置かれません。さらに一人でいることにも。TVをつければ、登場する人、登場する人、みんな朝からにぎやかに笑って、しゃべりまくり、コミュニケーション能力こそ現在を生き抜くためには不可欠と、社会のリーダーを自認する人々は大声でのたまい――何がコミュニケーションかの吟味なしに――、独り居の大切さや、黙することの大切さを思う人の声はなかなか若い人たちの耳には届きにくくなっています。

　かつて※短大に勤務していた時、私は新入生にくる年もくる年も、せめてこの短大にいる間だけでも、独り居の時間をたっぷり持つようにと話しましたが、授業が終わると、きまって何人かの学生に廊下でそっと呼び止められ、①「ほんとうにひとりでいてもいいんですよね」と念を押されました。口数少なく、ひとりでいること。それがますますできにくくなっていることを痛感させられる、とりわけこの十数年でした。

　もっとも口数が少ないこと、ひとりでいることは、本来こんなふうにつなげて考えてはいけないかもしれません。口数の少ない人はひとりでいることが多くなりがちだけれど、この二つは直接関係があるわけではない。口数が少なくても、いつもグループの一部になっている人もいるし、おしゃべりでも、独り居の時間をちゃんと確保している人はいますものね。

　ただ、私が気がかりなのは、黙っていたいのに、無理をしてでも、しゃべらなくてはいけないと考える人が一〇代の人々の中にますます増えているように見えること、内容はどうであれ、②しゃべるという行為そのものを価値と考える人々が多くなっているように思われることで、こういう状況のもとでは他者の声に耳を傾けたり（小さな声はなおさら）、自分自身の内なる声に耳を澄ますことはむつかしくなってきているのではないかということです。

（中略）

　自分自身の内なる声を聞くことができてこそ、他者の気持ちを推し測ることができ、その声に耳を傾けることができると思いますし、自分自身との対話ができてこそ、他者との対話もできると思うのですが。いや、もしかしたら、その逆かもしれません。他者の声に耳を傾けることができてこそ、初めて自らの声に耳を傾けることができる。そんな気もしてきます。自分自身の中にたくさんの他者がいるわけですし。が、いずれにしろ、聞こうと思ったら、まず自らの口をつぐまなくてはね。そのためには、やはりひとりになる必要があるように思います。

（清水真砂子『大人になるっておもしろい？』岩波書店　第3信による）

※短大…短期大学の略。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「『ほんとうに……押されました」とあるが、ここからわかることとして、適当なものを選びなさい。

ア 独り居の時間をすでに確保している学生にとって、筆者の考えは受け入れづらく、学生が反発していること。

イ 学生の間で、一人でいることを否定する価値観が広がり、一人でいることが難しくなっていること。

ウ コミュニケーション能力が学生の間で低下しており、若い人たちに話が伝わりづらくなっていること。

〔　　〕

(2) ――線②「しゃべるという行為そのものを価値と考える」に当てはまるものを選びなさい。

ア 会話では、とにかく口数が多いことが大切である。

イ 会話では、相手の本当の思いを理解することが大切である。

ウ 会話では、自らの考えを深めることが大切である。

〔　　〕

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 現代ではコミュニケーション能力が重要であり、何が本当のコミュニケーションであるかが盛ん(さか)に議論されている。

イ 現代では一人でいる機会が減少しており、他者との対話は以前よりもしやすくなったといえる。

ウ 現代では、他者の思いを理解することができるような対話や、自分自身との対話が難しい状況(じょうきょう)にある。

〔　　〕